



林城跡 (大城・小城)

里山辺・入山辺地区にある林城を築いたのは信濃守護小笠原氏です。14世紀中頃、府中(現在の松本地域)に入った小笠原貞宗は、井川(現在の鎌田地区)に館を構えました。しかし、15世紀中頃から同族間の争いなどが起きたため、小笠原清宗は守りを固めやすい林の地へ館と林城を築きました。その後、林城一帯は15世紀末に小笠原氏の本拠地になったと考えられますが、天文19年(1550)に武田氏の侵攻を受けて自落しました。

林城は大城と小城からなり、松本市内に数多く残る山城の中でもとりわけて壮大です。

大城は、尾根の上に続くたくさんの平場や堀切、土塁が特徴で、城の全長は1km近くに達します。小城は、大城と同様に長大な堅堀や、尾根を埋め尽くす無数の平場に加えて、主郭をとりまく石積みの残りが非常によく、大城にはない畝状堅堀が見られることが特徴です。また、大城・小城に挟まれた大高崎地区には林山腰遺跡があります。この谷には、居館などがあつたと考えられ、中世の建物跡や陶磁器などの資料が出土しています。

現在「林城跡」として中世の名残をとどめている大城・小城は、その特色ある城郭が良好な状態で保護されている点が貴重とされ、平成29年～31年(2017～2019)にかけて、鎌田地区の井川城跡とともに国の史跡「小笠原氏城跡」として指定されました。

登り口と主郭の往復 約 2時間

①金華橋登り口
標高 638m
地元のみなさんが設置したパンフレットや杖があるので、ご利用ください。

③堂平
標高 715m
敵の動きを見張るのに都合のよい高まりとなっている場所です。

⑧堀切
幅7.5m、深さ5m。ここを過ぎると、いよいよ大城の中心部です！

②ビューポイント
急な登り坂で息が切れたらココでひと休み。大甘城跡(城山公園)や松本城天守も望むことができます。

④堀切
幅7m、深さ6mの堀。堀切から麓にのびる堅堀とセットで、尾根を登ってくる敵を防ぎます。

⑨副郭
標高 835m
主郭に次いで大きい平場で、土塁で囲まれています。幅30m、長さ38m。

縄張り図作成：遠藤公洋氏

⑤三日月状の平場群1
無数の平場が続く場所です。切岸を造ることにより、敵を直進させず、ジグザグに進ませる仕組みと考えられます。

⑩主郭
標高 844m
大城最大の平場で、土塁で囲まれています。幅 23m、長さ60m。

⑥三日月状の平場群2
平場や背後の切岸の高さと傾斜角が⑤よりも大きくなります。高い切岸はそれだけで敵の侵入を阻みます！

⑪主郭の石積み
北側の土塁には虎口と戦国時代の石積みが残っています。

⑦方形平場の石積み
⑥の中でここだけが四角い平場です。重要な場所だった可能性もあり。ぜひ見つけてください！

⑫井戸跡
石組の井戸跡。振り返ると、足がすくむような高さの切岸の下に、3重の堀切が見えます！

